

第4章 「アフリカの角」——新しい地域安全保障複合体

第1節 まえがき

遠藤 貢

(1) 「アフリカの角」概念

「アフリカの角」という地域概念が存在しているものの、この概念が明確にどこまでを指しているかについては、必ずしも研究者の間で共通理解があるわけではない。この地域について近年著作を著している二人の著名な研究者の地域設定にも違いがある。クリストファー・クラップム（Christopher Clapham）は、ジブチ、エチオピア、エリトリア、ソマリア（ソマリランドを含む）に概ね限定した地域概念としてこの地域を描くのに対して¹、アレックス・デ・ワール（Alex De Waal）は、比較的広域にこの地域を設定しており、上記4か国に自らが中心的な研究対象としてきたスーダンと南スーダンを加えた地域としている²。他の研究書においても、ここに記した6か国に関わる問題を扱う場合に、「アフリカの角」という地域概念を設定して、その特定の国と地域に関わる分析が行われる一般的な傾向がある。ただし、「アフリカの角」と重なる地域概念として「北東アフリカ」を用いることもあり、「アフリカの角」という地域をソマリ系住民が北東部に居住するケニアをも含む領域として設定する場合もある。

クラップムは、「アフリカの角」地域について、研究者それぞれが必要に応じて設定する「枠組み」であるとしているほか、近年イスラームをめぐる政治への関心が強まるにつれて、従来の「サハラ以南アフリカ」と「中東」という地域区分が、歴史的にも深い関係にあった紅海とアデン湾を架橋する関係の復活という視座の必要に言及している。「アフリカの角」地域をめぐる新たな地政学的課題は、今後こうして「再興」しつつある地域概念の再編という形で展開していくことが予想され、本章でもこの点が主に検討される。

他方、「アフリカの角」は、「サハラ以南アフリカ」における一地域として考えた場合には、その解決の道筋がつけにくい紛争が多発してきた地域という特徴を有している。1998年に勃発したエチオピアとエリトリア間の国境紛争、崩壊国家ソマリアにおける、特に中南部での政治秩序の実現、そして南スーダンにおける内戦など、いくつもの紛争状況を容易に想起できる。

(2) 「アフリカの角」と紅海をめぐる安全保障問題の顕在化

この地域は、国際的な海上交通の要衝であるだけでなく、紅海を挟んで、対岸のアラビア半島情勢とも深く関わる形で、「アフリカの角」地域の政治力学が胎動を始めている。

近年においては、イエメン内戦を起点として、「アフリカの角」地域をめぐり、特に湾岸のアラブ首長国連邦（United Arab Emirates: UAE）に代表される紅海の対岸の中東諸国による「港湾政治」（Port Politics）とも表現される軍事基地建設などに見られるような進出傾向が近年強まっている。

こうした動きには、「アフリカの角」の対岸にあるイエメン情勢をめぐるイランとサウジアラビアの対立関係を中心とした中東諸国間の緊張関係が投影されている面もある。歴史的にも、サウジアラビアの「アフリカの角」地域への最大の関心は、特にスーダンにおけるイランの影響の増大への懸念という点にあるが、現状におけるサウジアラビアの懸念の最大の要因は、対岸のイエメン内戦におけるホーシー（Hūthi）派に対するイランの軍事（武器）支援であることはよく知られている。こうした動静に対応する形で、サウジアラビアは、「アフリカの角」地域諸国に改めて急速な接近をはかることになった。

象徴的な出来事の一つは、シーア派の盟主であるイランにとってアフマディネジャード（Aḥmadīnezḥād）政権期にはスンニー派の重要なパートナーであったスーダンとの関係の変化である。2014年以降、サウジアラビアは、「アフリカの角」地域においてその資金力を背景として、その軸足を紅海にずらしながら、この地域への軍事・経済面での関与を改めて強めている。スーダンもその例外ではなく、2014年9月にスーダン政府が、首都ハルツームにあったイランの文化センターをシーア派の布教拠点になっているとの理由により閉鎖し、職員を国外追放したことは、こうした関係の変化を如実に示す出来事であった。また、2015年以降、サウジアラビアが主導するホーシー派への攻撃にスーダンは数百名規模の部隊を派遣し、スーダンはその見返りとしてサウジアラビアから10億米ドル規模の資金を得たとされている。さらに2019年4月11日に「民衆革命」の結果、打倒されたバシール（‘Omar Ḥassan Aḥmad al-Bashīr）政権後も、サウジアラビアは、UAEとともに、軍主導のスーダン軍事評議会に対し、30億ドル規模の援助供与を早い段階で決定した。

また、第2節でも触れるように、2019年のノーベル平和賞を受賞したエチオピアのアビイ・アフメド・アリ（Abiy Ahmed Ali）首相が2018年7月9日にエリトリアを訪問し、エリトリア大統領イサイアス・アフエウェルキ（Isaias Afewerki）との間で和平友好条約を調印するという動きに前後する形で、サウジアラビアとUAE両国はその仲介の動きを見せてきた。

ここには、「アフリカの角」側の諸国にとっては、イエメンという「対岸の火事」を巧みに利用する形で湾岸諸国の経済資源を域内に取り込む力学が作用している一方で、サウジアラビアとUAEを中心に、「アフリカの角」地域の安全保障に関わる問題領域への関与を深める動きが見て取れる。

(3) 地域安全保障コンプレックスの視座

上述のように、紅海の両岸に相互に関わる動きが見られるようになってきているが、こう

した問題を設定する理論的視座として「地域安全保障コンプレックス」(Regional Security Complex: RSC)を挙げることができる。これは、バリー・ブザン (Barry Buzan) らが従来から議論してきたように³、基本的には複数の国家から構成される「地域」レベルの安全保障の関わる問題系を検討する理論的視座である。「安全保障コンプレックス」は、「安全保障化や脱安全保障化、あるいはその両プロセスが、非常に密接に相互に関わり合っているために、その安全保障に関わる問題を、それを構成する一群の構成要素から切り離してしまうと適切に分析したり解決したりことができなくなる一つのまとまり」⁴である。そして、ここで「地域」については、安全保障に関わる実践をその環境に応じて展開する社会的に構築された領域であり、それは再生産されたり、変容したりする特性を持ち、持続的ではあるものの、それが永続的との評価はできにくいという見方を提示している⁵。そして、そこで働くパターンとしては「友好 (amity)」と「敵意 (enmity)」が起点となるほか、RSCが形成される上で、無政府構造とその帰結としての勢力均衡、そして地理的近接性の重要性も指摘される。地理的近接性は、安全保障に関わる相互作用を生み出す大きな要因であることが、ここには影響している⁶。

こうしたRSCの視座に立つと、本章が扱う「アフリカの角」と紅海安全保障の問題は、従来のようにアフリカと中東という形で分けて検討することでは扱えない新たな地域動態を考慮する必要性を迫る問題領域である。これは、例えば広域の中東RSC (Middle East RSC) といった捉え方の必要性を示唆するものであり⁷、紅海両岸を挟む新たな地域安全保障コンプレックスとしての「トランス紅海RSC (Trans-Red Sea RSC)」といった評価も可能であろう。さらには、この新たに形成されつつある地域の安定や安全保障に関わる地域の主要国の見方 (visions) の相違といったことも考慮する必要がある状況が生じている⁸。

(4) 本章の構成

本章では、以下第2節において、アフリカ側からみた「アフリカの角」の変容をめぐる安全保障の問題の現状を整理する。第3節においてイエメン内戦の展開とそこにおける地域諸国の関与と今後の和平や開発に向けた課題について検討を行う。第4節ではサウジアラビア、UAE、エジプトの紅海への関与の現状を整理する。第5節では、トルコの「アフリカの角」外交に関して、主にソマリアとスーダンを焦点として検討する。第6節では、新しい地政学的観点から改めてグローバルにアフリカの角の位置づけを提示する。

— 注 —

- ¹ Christopher Clapham, *The Horn of Africa: State Formation and Decay* (London: Hurst, 2017).
- ² De Waal Alex, *The Real Politics of the Horn of Africa: Money, War and the Business of Power* (London: Polity Press, 2015).
- ³ Buzan B. and O. Wæver, *Regions and Powers: The Structure of International Security* (Cambridge: Cambridge University Press, 2003).
- ⁴ Ibid., p. 44.
- ⁵ Ibid., p. 48.
- ⁶ Ibid., p. 45.
- ⁷ Donelli F. and B. Cannon, *Middle Eastern States in the Horn of Africa: Security Interactions and Power Projection* (Milan: Italian Institute for International Political Studies, 2019).
- ⁸ Verhoeven, Henry, “The Gulf and the Horn: Changing Geographies of Security Interdependence and Competing Visions of Regional Order,” *Civil Wars*, vol. 20, no.3 (2018), pp. 333-357.